

平成27年度 学校評価に対する最終報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>1 授業改善を進め、個々の生徒に応じた指導による基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>① ICT機器等を活用しながら、わかりやすい丁寧な授業を実施する。</p>	<p>授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が                      A 80%以上である                      B 70%以上である                      C 60%以上である                      D 60%未満である</p>	<p>A</p>	<p>アンケートでは、「分かりやすい授業を心がけていると感じる」生徒が93%で、ICT機器を使用する頻度が増加したり、研究授業を全教科行ったりしていることが結果につながっていると考えられる。しかし、実際「学習内容が理解できていると思う」生徒は83%にとどまっており、さらにICT機器の使用や研究授業の成果を生徒の理解度に直結するように努力していきたい。</p>
	<p>② 生徒が学習に集中し、主体的に取り組むようにするため、発言や活動の場を設ける。</p>	<p>授業に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合が、                      A 80%以上である                      B 70%以上である                      C 60%以上である                      D 60%未満である</p>	<p>A</p>	<p>「授業に意欲的に参加している」と思う生徒は80%で、前期のアンケートに比べると後期は8ポイント増加した。また、「考える時間や発言の機会がある」も84%で、4ポイント増加し、良い傾向を示した。一方で、「試験などには準備し、成績向上に努めている」生徒は61%で、意欲が試験勉強にまで及んでいない場合が多い。引き続き、学校での補習への参加を呼びかけ、試験前の学習を働きかけたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>ICT機器を用いた分かりやすい授業を心掛ける事は評価できる。基礎基本の学力をしっかりとつけて、卒業後の進路選択の幅を広げて欲しい。                      就業しながら学校で学び、卒業の日を迎えるために、学校での「分かる授業」や「達成感」が基本となるので、今後とも授業研究や工夫に取り組んで欲しい。</p>		
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>		<p>ICT機器を使用する頻度を増やし、自発的な研究授業を実施しながら、他の教科の授業展開や生徒の様子を共有することで学校全体で「分かる授業」を心掛け、生徒の達成感や基礎学力向上に向けて教材研究や授業展開に取り組みたい。                      アルバイト等で家庭学習の時間が不足しているので、授業中での理解度を高める工夫や試験前の補習授業を充実させ、継続的に学習する習慣を身に付けさせたい。</p>		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 学校生活全般を通して、社会で必要なルールやマナーの定着を図る。	① 欠席・遅刻・早退を減らすために、生徒指導便りや遅刻0ウィーク等を通して生徒・保護者への働きかけを行う。	意識的に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C	年度末に実施した生徒向け意識調査では、「意識して欠席・遅刻・早退を減らそうと取り組み、実際に減らすことができた」生徒の割合は68%であり、前期末の調査と比べると8ポイント上昇した。遅刻0ウィーク等の取り組みが生徒の意識向上につながったのではないかとと思われる。今後は、「意識して取り組まなかったので欠席・遅刻・早退が多かった」と答えた生徒に対する効果的な指導について考えていく必要がある。
	② 各種教室（非行防止教室、人権講話等）の開催により、規範意識を高めるとともに学校生活を通してルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	ルールやマナーを守って学校生活を送っている生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	A	年度末に実施した生徒向け意識調査では、「ルールやマナーを守って学校生活を送っている」生徒の割合は45%、「だいたい守っている」生徒は55%で、全員の生徒がルールやマナーを守っていると答えた。前期末の調査では、「ルールやマナーを守っていないことがある」と答えた生徒もいたが、今回の調査では全員が守っていると答えており、生徒の意識が向上してきたと思われる。規範意識を高めることは、卒業後の社会生活を送っていく上で重要なことであり、今後も継続して取り組んでいく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		熱心で根気強い指導の成果で遅刻者の割合が減ってはきているが、もう少し生徒に時間の大切さを意識させる取り組みをお願いしたい。社会人として必要な資質なのでしっかり認識させて欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		毎日の生徒に関する情報交換や保護者との連携をより深めることにより、学校や家庭での情報の共有化や早急な対応が可能となるよう、協働して生徒の生活習慣の確立を目指していきたい。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 キャリア教育を推進し、進路実現のためのロードマップの充実を図る。	① 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	<p>現在、就業していない生徒で、アルバイトやインターンシップに取り組んだ生徒の割合が</p> <p>A 70%以上である</p> <p>B 50%以上である</p> <p>C 30%以上である</p> <p>D 30%未満である</p>	B	<p>インターンシップは3年生2名で実施した。アルバイトは、全体で13名が取り組み、60%の生徒が就業を体験し、さらに就業に向けた意識を高めるため、企業見学と進路講話を行った。生徒の感想は前向きなものが多く、今後個々の生徒の状況に応じたはたらきかけを強化したい。</p>
	② 教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	<p>インターンシップ等を受け入れてもらった会員企業が</p> <p>A 7社以上である</p> <p>B 5社以上である</p> <p>C 3社以上である</p> <p>D 3社未満である</p>	A	<p>教育振興会総会の案内にあわせ、企業見学またはインターンシップの受入可否について調査したところ、8社から受入可能との返事をいただいた。その中から、都合の合った3社に企業見学を行うことができた。</p> <p>また、3年生のインターンシップを3日間実施したが、生徒の就業意識を高める上で大変有意義なものとなった。今後も受け入れ企業の拡大を目指していきたい。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<p>「即戦力」を求める今の時代に、インターンシップやアルバイトを通して職業選択に必要な「コミュニケーション力」や「生きる力」を身に付けさせて欲しい。</p> <p>学校の現状をより広く地域にPRすることにより、生徒の就業支援や協力体制を充実させるよう努めて欲しい。</p>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<p>インターンシップや企業見学のみならず、体験実習やジョブカフェ石川、企業ガイダンスなどに積極的に参加し、求められる資質や人材像を意識させ、そのために必要な「コミュニケーション力」の育成を図りたい。</p> <p>個々の進路実現に向けて教育振興会や地域企業から広く情報を収集し、同時に学校をPRしながら生徒の就業支援に向けて早い段階から指導を深めていきたい。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 食生活に対する正しい理解と望ましい食生活の定着を図る。	① 給食時に個別指導を行う。また、保健便り等による情報提供を行う。 ② 栄養士による生徒・保護者への食育指導を行う。	食事の重要性を理解し、意識的に望ましい食事を摂ることのできる割合が A 80%以上である B 60%以上である C 40%以上である D 40%未満である	D	給食時における個別指導や保健便りによる情報提供で、牛乳の摂取率はやや増えた。また、管理栄養士による食育指導を3回実施し食事の重要性を訴えた結果、給食の喫食率は昨年度より4ポイント上昇し78%になった。しかし、1月の時点で望ましい食事をした生徒は48%であり、意識的になおかつ望ましい食事を摂った生徒は9月の16%から24%と若干増えたものの、依然として低い水準である。今後は、個別に指導を行い、意識を高めさせたい。
学校関係者評価委員会の評価	体調管理の面から、栄養バランスのみならず食事回数も意識して摂るように指導して欲しい。 「生きるために食べる」「働くために食べる」ということを認識させ、視聴覚教材や講演会等を通して、「望ましい食事の在り方」を深めて欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	来年度も継続して栄養士による栄養指導を予定している。その中で、食事の栄養素や望ましい食事の取り方について指導していきたい。 来年度は歯磨き指導の年度なので、口腔ケアや正しい咀嚼の指導を通して食事の重要性を指導していきたい。			